

2013年第3回日本地球化学会評議員会 議事録

日時:2013年9月10日(火)12:30-18:30

場所:つくばサイエンス・インフォメーションセンター 中会議室

出席者:吉田会長、山本副会長(途中から出席)、清水監事(オブザーバー参加)、板井、岩森(途中一部出席)、小畑、折橋、川幡、佐野(途中から出席)、下田、高橋、谷水(途中から出席)、谷本(途中から出席)、角皆、原田、日高、平田(一部出席)、益田、丸岡、南、横山、豊田の各評議員

欠席者:植松評議員、塚本評議員

1. 審議事項

1.1. 第2回評議員会(メール会議)議事録の確認

1.2. Geochemical Society (GS)およびEuropean Association of Geochemistry (EAG)とのMOU締結について

会長から本会とGS、本会とEAGが相互交流を深め、Goldschmidt Conference (GC)を発展させる努力を継続することを謳ったMOU文案について説明があり、承認された。本年12月にSan Franciscoで開催されるAmerican Geophysical Union (AGU)Fall Meetingの際に調印される。

1.3. Goldschmidt Conference (GC)2016年日本開催について

益田GC幹事・準備委員会(LOC)委員長から国内関連学協会に対する会長・準備委員会委員長名での協力要請文書についての説明、およびLOCとGSとの間で締結予定のMOU文案についての説明があり、承認された。後者については、GC2016開催に伴う収益・損失の取り扱いに関してGSと本会の間で今後見解の相違が生じる可能性があるため、MOUを尊重しつつ相互の意思疎通を深め、柔軟に対処する方針を確認した。

1.4. 2012年度決算、2013年度中間報告、2013年度予算

南会計幹事からそれぞれについて説明され、2012年度決算および2013年度中間報告が承認された。2012年度会計は、一部会員の納入延滞により会費収入が予算額を若干下回ったものの、広告料収入および雑収入(「地球と宇宙の化学事典」の印税、過去の年会LOCからの準備金返却等)が増加したため、全体の収入は予算額を上回った。支出は行事費、会員業務委託費が削減できたが、印刷費、発送費が若干増加した。結果として基本財産引当金、繰越金を除いた実支出は実収入を約70万円上回った。2013年度は、科研費国際情報発信強化B(GJ助成)および研究成果公開促進費(市民講演会助成)の採択により収入が当初予算より増加、支出はほぼ順調に推移している。

2014年度予算については、(1)Geochemical Journal(GJ)予算を50万円増額して会員によるオープンアクセス論文投稿費を助成する、(2)GC2016 LOCへ貸し付ける200万円を計上する(GC基金に組み入れる)、の2点の修正を経た上で承認された。

1.5. 総会式次第について

議事次第、2012年度事業報告、2013年度中間報告、2014年度事業計画が承認された。

1.6. 次期評議員会への引き継ぎ事項について

1.6.1. 前期(2010-2011年度)評議員会から今期(2012-2013年度)評議員会へ引き継がれた事項への対応結果について審議し、以下の通り決定した

(1) IAGC(国際地球化学連合)やGeochemical Society((米国)地球化学会)、European Association of Geochemistry(欧州地球化学連合)、Chinese Society of Mineralogy, Petrology and Geochemistry(中国鉱物岩石地球化学会)との連携を一層強化し、国際的交流を通して会の活動をより一層活性化して欲しい。
-----中国鉱物岩石地球化学会とはMOUを締結した。GS、EAGとも近々MOU締結予定。

(2) Goldschmidt Conferenceにおける本学会の立場(主催3団体の1つ)を堅持して欲しい。GJ賞の授賞式、ブース展示、参加登録費の割引を引き続き継続して欲しい。Goldschmidt ConferenceでのGJ賞の授賞に併せて、授賞レクチャーをプログラムに組み入れてもらうようにして欲しい。Goldschmidt Conferenceのプログラム委員に地球化学会会員を積極的に推薦して欲しい。
-----上記すべてを実施、達成した。主催3団体という認識は以前からなく、2つのCo-ownersの次の第3番目の団体Principal Co-sponsorという位置づけに変わりがないことを確認した。さらに2016年の日本開催が決定し、準備委員会を設置して準備を進めている。

(3) Geochemical Journalの将来的展望を引き続き議論し、会の財政と整合させつつ、論文誌としての発展を期して欲しい。
-----2013年から出版・販売権をテラパブに移譲して印刷経費を削減し、会の財政との整合を図った。さらに、新たに採択された科研費を利用してオープンアクセスの電子ジャーナル化に向けての取り組みを開始した。

(4) 日本地球惑星科学連合、日本化学連合との関係を適宜見直し、地球化学会のプレゼンスを高めて欲しい。
-----日本地球惑星科学連合には代議員を多数推薦し、連合大会でのセッション運営など積極的に関与した。日本化学連合については、関連会議には代表が出席した。

(5) 地球化学会の活動が広く会員の利益に叶っているかどうかを常に考えて欲しい。
-----会員の利益を考えて種々の活動を行ってきた。より細やかな希望聴取とそれに沿った活動の実施が大切と考える。

「検討事項」

(1) JSPS育志賞、文科省科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者、若手科学賞受賞候補者などの推薦依頼をどうあつかうかを明確に決める。
-----応募締切2週間前を目途に会員から候補者を募り、会長と副会長が審議して学会推薦の候補者を決めることとした。しかし、これまでのところは会員からの立候補・推薦がない。

- (2) 地球惑星連合大会プログラム委員を他の一連の委員とともに、会期の初めにきめておく。プログラム委員の任期は1年だが、2年任期とすると好都合。評議員の中から選ぶ場合、2年間は評議員から外れることもあるが、評議員である必要はないので、問題にならない。
- 委員3名を会員から選び、3年任期、1名が毎年交代となるようにする。毎年第1回評議員会(2月)にて承認する。

1.6.2. 今期評議員会から次期(2014-2015年度)評議員会への申し送り事項について審議し、以下の通り決定した

- (1) Geochemical Society((米国)地球化学会)、European Association of Geochemistry(欧州地球化学連合)、Chinese Society of Mineralogy, Petrology and Geochemistry(中国鉱物岩石地球化学会)とのMOUをもとに、具体的な国際的交流を通して会の活動をより一層活性化して欲しい。
- (2) IAGC(国際地球化学連合)、アジア・オセアニアの地球化学会との連携を強化し、MOUを結ぶよう努力して欲しい。
- (3) Goldschmidt ConferenceにおいてGS、EAGに次ぐ第3番目のPrincipal Co-sponsorという本学会の立場に変わりがないことを確認し、GJ賞の授賞式・受賞講演、ブース展示、参加登録費の割引を継続して欲しい。Goldschmidt ConferenceのCo-convenorに地球化学会会員が積極的に立候補するよう働きかけて欲しい。
- (4) Goldschmidt Conference 2014時にGS Board memberとして日本地球化学会より一名を選出する。そのメンバーはThe Goldschmidt Forumの委員としても機能するので積極的に要請を受けてほしい。
- (5) Goldschmidt Conference 2016の成功に向けて日本地球化学会は準備委員会のコアメンバーを選出した。準備委員会および将来組織される組織委員会(LOC)はその活動予定を地球化学会に諮り、評議員会で決定する。素早い活動が必要な場合は事後承諾でも良いものとする。このように本会の責任の下で、LOCがスムーズに活動できるようにしてほしい。
- (6) Geochemical Journalおよび和文誌「地球化学」の将来的展望を引き続き議論する場を設定し、会員への利便供与についても十分議論し、論文誌としての発展を期して欲しい。
- (7) 日本地球惑星科学連合、日本化学連合との関係を短期・長期的視点で適宜見直し、地球化学会のプレゼンスを高めて欲しい。
- (8) 幹事会の構成と各幹事の役割分担について見直しを行ってほしい。
- (9) 大型研究計画や2040年に至る研究の夢ロードマップなどについて継続的に議論し、より良い提案をしてほしい。

1.7. 次期学会賞等選考委員および鳥居基金委員の選出について

投票により学会賞等選考委員(任期2年)2名および鳥居基金委員(任期3年)1名がそれぞれ改選された。

1.8. 地学オリンピック日本委員会への活動支援について

地学オリンピック日本委員会の活動支援要請に対し、本会が協賛団体として協賛することが承認された(協賛金5万円)。また、地学オリンピック予選および本選の問題作成への協力依頼に対して、本会から作成委員を派遣することを承認した。また、これまで地学オリンピック担当委員を務めた丸岡評議員が今季限りで退任し、次期評議員会にて次の委員を決定することとした。

1.9. 日本地球惑星科学連合(JpGU)男女共同参画委員について

JpGU男女共同参画委員会はアウトリーチに関する情報共有を主な目的とし、年3回程度の会合(うち1回は連合大会時、他はメール会議)が開かれ、イクメンプロジェクト企画、女子高生対象夏の学校への講師派遣などを行っている。本会から派遣すべき委員が、2010年から欠員となっていたため、来年5月から任期2年の委員とし、次期評議員会にて選出し会長が委嘱することとした。

1.10. 「今後の宇宙開発体制のあり方に関するタスクフォース会合・リモートセンシング分科会」が設置したTFコミュニティの提言書および連絡担当者について

TFコミュニティ提言書案について特段の意見は出なかった。連絡担当者を谷本浩志会員に依頼した。

1.11. 役員選挙細則について

第7条の「副会長の選挙は2名連記無記名投票とする」および「評議員の選挙は20名連記無記名投票とする」について、記名数がそれぞれ1名、19名以下の票も有効であることを明確にするためそれぞれ、「2名不完全連記無記名投票」および「20名不完全連記無記名投票」と改正する案が豊田評議員から提出され、承認された。また、第6条(1)で規定されている、会長・副会長・監事選挙における得票同数の場合の選出方法が同(2)の評議員選挙の場合と異なる点について、次期評議員会において改正の是非を議論することとした。併せて高橋選挙管理委員長から出された、投票率向上のための投票用紙の改訂案についても、次期評議員会が早期に選挙管理委員会を発足させて検討していくこととした。

2. 報告事項等

2.1. 役員および評議員の選挙結果(高橋選挙管理委員長)

2013年9月3日13:00-16:30に高橋委員長、谷水委員により開票が行われた。投票数は175であった。

会長:当選 川幡穂高 157票、次点 山本鋼志 2票、1票得票者 3名、白票13

副会長:当選 野尻幸宏 144票、山本鋼志 135票、次点 高橋嘉夫 3票、1票得票者 7名、白票59、無効2票

監事:当選 清水洋 157票、次点 石橋純一郎 1票、鍵裕之 1票、白票15、無効1票

評議員:当選 平田岳史 136票、坂本尚義 118票、原田尚美 117票、角皆潤115票、鍵裕之114票、石橋純一郎 112票、鈴木勝彦 112票、南雅代 110票、小畑元 109票、日高洋 109票、益田晴恵 109票、佐野有司 108票、奈良岡浩 101票、岩森光 97票、川口慎介94票、大河内直彦 90票、山岡香子 81票、折橋裕二 77票、藪田ひかる 77票、寺田健太郎73票、次点 三村耕一 71票、渡邊剛 71票、67票以下

の得票者の総得票数289、白票1008、無効2票

2.2. 庶務(豊田幹事)

2.2.1. 幹事会

第3回幹事会(9月7日(土)13:00-18:10、東工大大岡山キャンパス西9号館)

出席者:吉田会長、山本副会長、塚本・GJ編集委員長、高橋・和文誌編集委員長、川幡、下田、平田、益田(13:30から出席)、南、豊田の各幹事、欠席者:原田幹事

第3回評議員会の議案整理を行った。

2.2.2. 年会関連

日本化学会、日本分析化学会、日本地質学会、日本質量分析学会、日本鉱物科学会に共催依頼し、承認された。日本化学会と日本地質学会にはメールニュースによる広報を依頼した。中国鉱物岩石地球化学会Hu会長、Liu前会長招聘のための事務手続きを行った。名誉会員へ招待状を発送した。学会賞等受賞者への講演依頼およびメダル、賞状の手配を行った。昨年は選考に漏れた候補者(の推薦者)には通知しなかったが、今後は会長名で庶務幹事から通知することとする。

2.2.3. 学会賞、鳥居基金

GJ賞の盾、賞状を手配した。GC2013授賞式にて会長から宗林会員に盾、賞状、副賞目録が授与された。共著者分の賞状には郵送で宗林会員に送付予定。鳥居基金(第2回、7月末締切)には海外渡航2件の応募があった。

2.2.4. 広告

本年度年会会場にて、出展企業に和文誌、HP広告掲載依頼をする。

2.2.6. その他

日本化学連合 正会員学協会 会長会に山本副会長とともに出席した(8月29日11:00-13:30、化学会館)。

2.3. 広報(原田幹事)

2.3.1. 学会ホームページ

国際文献に依頼し、改訂を実施。トップページの新着にサムネイル写真を用い、見やすく改訂。また、トップページ上部には会員から寄せられた写真をスライドショーで見せている。随時、新しい写真を受付中。情報のアップロードについては、17800円/月で国際文献と年間契約(サムネイル写真のアップロード分が増えたため前年より1000円/月の増加)。現在ウェブ広告は3件(テラパブ、三洋貿易、PTT株式会社)。

2.3.2. 講師派遣事業

2013年8月現在の派遣講師登録は48名。今年度の派遣実績は4件(広尾学園中学校・高等学校(東京都):丸岡照幸会員、3/20、久喜市立久喜中学校(埼玉県):瀧上豊会員、5/29、吉野小学校(福井県):山本鋼志会員、6/21、鈴峯女子中・高等学校(広島県):高橋嘉夫会員、6/22)。

2.3.3. 展示ブース

JpGU大会では、地球化学ならびにGJのバックナンバー、GJ-CD、パンフレット、ノベルティの展示また

は配布、2014年年会、ショートコース、若手会集会の紹介ポスター掲示、学会員が著者となっている書籍(最大56%引き割引価格や付録付きで販売)、「地球と宇宙の化学事典」の販売を行った。

Goldschmidt201ではGJバックナンバー、GJ-CD、パンフレット、ノベルティの展示または配布、ならびに Goldschmidt Conference 2016横浜のポスター掲示、横浜紹介関連パンフレット、give away 配布を行った。

2.3.4. つくば年会のプレス対応

各コーナーにハイライトの発表の推薦依頼した。J1(地球外物質)およびG18(原発事故)に関しては特に関心が高いことから、セッション全体の概要をまとめ、先行して発表内容の要約をマスコミ各社にファックス送信した。他のセッションのハイライト講演の情報はまとめてマスコミ各社にファックス送信した。

2.4. 会員(下田幹事)

5月から8月までの会勢は以下の通り。

日本地球化学会会員数(2013年8月31日)

会員種別	人数	契約口数	GJ冊子希望
一般正会員	738		64
学生正会員	138		6
うち、学生パック	(53)		(2)
シニア正会員	60		8
賛助会員	9	9	2
名誉会員	10		1
合計	955		83

会員異動(2013/5/1~2013/8/31)

【入会】

(5月)

会員番号	会員名	会員種別
9282263	堀 まゆみ	学生パック
9282849	工藤 久志	学生正会員
9282852	小池 みずほ	学生パック
9282855	加藤 千恵	学生パック
9282856	田中 雅人	一般正会員
9282857	西崎 遼	学生パック
9282858	奥井 航	学生パック
9282861	新井 達之	学生パック
9282862	青山 慎之介	学生パック
9282863	廣瀬 正明	学生パック

9282864	大原 信	一般正会員
9282865	Adebanjo J. Anifowose	学生正会員
9282866	ChikumbuskoChiziwaKaonga	学生正会員

(6月)

9282868	正木 翔太	学生パック
---------	-------	-------

(7月)

9282873	西田 梢	一般正会員
9282874	癸生川 陽子	一般正会員
9282887	山本 伸次	一般正会員
9282881	田島 義之	学生正会員
9282871	早田 葵	学生正会員
9282264	富安 史也	学生パック
9282859	佐藤 峰南	学生パック
9282879	石輪 健樹	学生パック
9282880	山下 陽平	学生パック
9282885	高橋 稔	学生パック
9282891	養田 太一	学生パック

(8月)

5282265	ダニエラチェ セバスチアン	一般正会員
9282869	風早 竜之介	一般正会員
9282875	藤原 将智	一般正会員
9282882	金井 啓通	学生正会員
9282896	佐藤 知紘	学生正会員
9282870	外山 浩太郎	学生パック
9282872	近藤 望	学生パック
9282877	小坂 由紀子	学生パック
9282883	田中 崇史	学生パック
9282884	鐵 智美	学生パック
9282886	谷口 無我	学生パック
9282889	菅 大暉	学生パック
9282892	藤本 潤	学生パック
9282895	安藤 卓人	学生パック

【退会】

(5月)

会員番号	会員名	会員種別
6281021	佐藤 純	シニア正会員 逝去

(6月) なし
 (7月) なし
 (8月) なし

【会員種別変更】

(5月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
9282662	横山 由佳	学生正会員	一般正会員

(6月)

9282347	松中 哲也	学生正会員	一般正会員
9282529	山口 保彦	学生正会員	一般正会員
9282767	坂本 祐樹	学生正会員	一般正会員

(7月)

7280928	渡辺 康憲	一般正会員	シニア正会員
9282405	山根 雅子	学生正会員	一般正会員
9282548	楠野 葉瑠香	学生正会員	一般正会員
9282669	太田 祥宏	学生正会員	一般正会員
9282743	小原 北士	学生正会員	一般正会員

(8月)

9282685	森島 唯	学生正会員	一般正会員
---------	------	-------	-------

2.5. 和文誌「地球化学」(高橋編集委員長)

2.5.1. 編集長交代

2014年1月より小木曾哲会員(京都大)に交代する。編集委員会は次期編集委員長が中心となって編成予定。

2.5.2. 発行状況

Vol.47, No.3(日本地球化学会60周年記念号)を発行した。No.4は以下の内容で年内発行予定(GJ Vol. 47, No.4と同梱)。(1) 日本地球化学会奨励賞(2012)受賞記念論文: 澁谷岳造、「初期地球の海底熱水系に関する地質学的, 地球化学的研究」、(2) 日本地球化学会賞(2012)受賞記念論文: 杉浦直治、「隕石母天体の集積の歴史を明らかにする試み」(査読中)、(3) 日本地球化学会奨励賞(2009)受賞記念論文: 飯塚毅、「ハフニウム及びタングステン同位体から読み解く初期地殻進化」(査読中)、(4) 企画総説「地球化学の最前線」: 天知誠吾(原稿待ち)、(5) 報文: 土岐知弘ほか、「熊野泥火山における間隙水の起源」、(6) 博士論文抄録: 東田盛善「南西諸島の天然水の起源および水質形成に関する地球化学的研究」、(7) 博士論文抄録: 橋口未奈子「炭素質コンドライト隕石中の同位体異常をもつ有機物の水素・窒素同位体組成と産状」。

*この他、報文2編が査読中。

2.5.3. 未投稿の受賞記念論文(過去10年以内)

学会賞:横内陽子(投稿予定)、吉田尚弘(投稿予定)、南川雅男(投稿予定)、長尾敬介、海老原充、塚本尚義 奨励賞:長島佳菜(投稿予定)、川口慎介、黒田潤一郎、西澤学(投稿予定)、関宰

2.5.4. 地球化学誌の最近4年間(2010-2013 年)の活動総括

(1) 企画総説「地球化学の最前線」の連載開始、(2) 特集号を企画(「有機物・微生物・生態系の地球化学」、「アストロバイオロジー」、「東日本大震災から1年」、「地殻流体」、「60周年記念号」)、(3) CiNii での創刊号以降の全文公開開始、(4) 予算削減の努力(部数1000 部に削減、編集費20 万円に減額、カラーチャージ価格表明示)、(5) 2013 年より表紙刷新、(6) 編集長交代のプロセスの明文化

2.5.5. 地球化学誌の今後について

数名の会員から寄せられた和文誌の在り方についての批判を踏まえ、以下を提案し、年会期間に開催される夜間集会でも議論する。(1)投稿を主とする和文誌の役割が小さくなってきたので、依頼原稿の割合を増やす。ただし編集委員の負担が増すこと、投稿の場を残しておいて欲しいという声にも留意。(2)ニュースの中の会員交流記事との棲み分けを再検討する。(3)印刷社の再選定。(4)特集号の表紙を差別化できるようにしたので活用する

この報告に対し、次期評議員会において運営委員会を設置して検討するのがよいのではないかと、この意見が出された。

2.6.GJ(塚本編集委員長)

2.6.1. 発行・編集状況

2013 年 vol. 47, No. 3 は6 月に、No. 4は8 月に発行された。9 月1日現在の投稿数は238報、うち受理79 (44%)、却下100 (56%)、審査中57、取り下げ2となっている。特集号は、第58 回年会「水圏環境地球化学-佐竹洋先生記念シンポジウム」に基づく特集号(富山大・張会員)を年内発行予定、Goldschmidt 2013”Refractory Grains, Volatiles, and Organic Molecules Inherited from the Interstellar Medium”に基づく特集号(Lydie Bonal, Shogo Tachibana, Henner Busemann)を予定している。

2.6.2. その他

Geochemical Journal Awards 2013 の授賞式・受賞講演がゴールドシュミット会議で行われた。会場はほぼ満席であった。Open Access 論文公示と取扱を開始した。今年中に出版と同時にDOI 取得可能とする予定で鍵副編集長と作業を進めている(テラパブがJSTAGEに論文をアップロードすることにより取得する)。科研費にて編集事務を行う非常勤職員1 名を9 月より雇用した。

2.7. Goldschmidt Conference (GC)(益田幹事)

2.7.1. 5月25日以降のGC2016組織準備委員会の活動

(1)Geochemical Society (GS)との合意文書に関するメール会議を6月上旬までに行い、修正を行った。(2)6月17日にワシントンD.C.のカーネギー研究所にて、GSの会長であるDr. Rick Carlsonと合意文書の内容について協議した。日本地球化学会からのこの会合への参加者は、吉田会長、益田幹事兼準備委員会(LOC)委員長、山下勝行会員(LOC国際担当委員)の3名。(3)6月の合意文書に関して7月下旬から8月上旬にかけて、再度メール審議を行い、微修正後に承認を得た。(4)GC2013の開催期間中に以下の公式・

非公式行事を行った。8月25日: 拡大LOC委員会を開催した(公式)。会期中に会場や運営に関する観察事項についての感想文を川幡LOC委員まで送付することを依頼した。また、中国との連携を諮るために Indiana University のDr. Cheng Zhuの紹介が行われた。8月28日: ケンブリッジパブリケーションのDr. Paul BeattieによるGC2016に関する企画提案の説明。当日配布された資料を改訂して9月中旬までに見積書を作成して送付されることとなった。8月28日: GSの会長であるDr. Rick Carlsonと合意文書に署名した。その他: 初日のGS board meeting とEAG-GS meeting, 最終日のLunch Partyで吉田会長がGC2016の紹介を行った。また、GC2014(来年度のサクラメントでの会議)のプログラム委員会および運営委員会へオブザーバー参加した。

2.7.2. 今後の予定(おおむね年内くらいに予定しているもの)

(1)ケンブリッジパブリケーションとの契約(時期は未定)、(2)プログラム委員会のコーディネーター(セッション提案者)と、その他委員会の実務委員の推薦、(3)日本学術会議と日本学術振興会への会議開催支援申請書の作成、(4) 国内と国際の関連学会への協力要請、(5)旅行代理店の選定(現在、コンベンションリンクージュによって作業進行中)。

2.8.企画(平田幹事)

2.8.1. Goldschmidt Conference 2013

8月25-30日にイタリア・フィレンツェにて開催された。参加登録者は約4200名。地球化学会として協賛金(5,000ドル)を支援。日本地球化学会会員は登録費が50€割引となった。Plenary Lectureの会場にて Goldschmidt Medal, Shen-su Sun Award, Urey Medal, Patterson Award, Houtermans Medal, The Geochemical Journal Awardの授賞紹介があった。またGJアワード授与式と受賞記念講演も開催された。

2.8.2. 日本地球化学会第60回年会および関連行事

9月11-13日に筑波大学 第一エリア1D棟, 1E棟(鉱物科学会は1B棟, 1C棟)にて開催予定。実行委員長は野尻幸宏会員。今年は日本鉱物科学会との共同開催となった。年会での発表形式は今年もセッション制がとられ、「共通セッション」(日本地球化学会と日本鉱物科学会の共通セッション)が4、「学会基盤セッション」(評議員が中心となりとりまとめたもの)が18、「特別セッション」(一般公募したもの)が2、計24セッションとなった。発表数は、受賞講演(総会後の受賞講演会)5件(昨年度奨励賞受賞の澁谷氏の発表も含む)、口頭発表160件、ポスター発表87件の全252件となった。今年も学生賞を開設し、最終日にクロージング・セレモニーを開催し学生に発表賞を授与することとなった。年会前日(9月10日)に5つの講演から成るショートコースを開催、参加登録は26名(うち1名が鉱物科学会からの参加)。年会翌日(9月14日)に一般市民講演会「東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質汚染」をノバホールにて開催予定。

2.8.3. 日本地球化学会第61回年会の予定

来年度の年会は9月17日(水)~19日(金)に富山大学にて開催予定(実行委員長: 張勁会員)。地球化学会60周年記念行事として、9月15日(月・祝日)に日中地球化学フォーラム(仮題)を計画。9月16日(火)に第9回ショートコースを予定。

2.8.4. その他

日本分析科学機器展示会(JASIS@幕張)にて9月4日に第1回レーザーワークショップ(レーザーアブレーション分光分析研究会主催、日本地球化学会・日本質量分析化学会後援)、9月5日にイメージング質量分析のワークショップ(日本質量分析学会主催)が開催され、いずれも100名を超える参加者があった。会場が無料であり、なおかつ最先端の分析機器に関するセミナーが並行して開催されていることから、地球化学会としても活用の可能性を検討したい。

2.9. ニュース(川幡幹事)

メールニュースはこの2年間、特に問題となる投稿はなかったので、投稿希望者が直接メールニュースを配信できるような仕組みに改め、ニュース幹事の仕事を軽減してはどうかとの提案があり、次期評議員会にて検討することとした。

2.10. 鳥居基金委員会(下田委員長)

海外渡航について2件の応募があった(中田亮一会員、飯塚理子会員)。いずれも「学会、野外調査等に参加し、論文発表、あるいは重要な用務に従事するなど目的が明らかであるもの」との要件を満たし、申請者の研究能力が高く、学会に対して今後大きな貢献が期待できることから採択とする。

2.11. その他

JpGU代議員選挙(候補者受付締め切り9/12)に本会会員が立候補または候補者として推薦されるよう働きかけ、候補者が出そろったら改めて本会会員をリストアップしてメールニュースで情報提供し、会員へ投票を呼びかけることとする。

(庶務幹事・豊田栄)